日本臨床漢方医会
第25回漢方家庭医講習会

漢方の独壇場

～疾患と治療法～

2019年11月16日

つるた小児科・アレルギー科
鶴田　光敏

利益相反（COI）開示

発表者名：　鶴田光敏

演題発表内容に関連し、発表者全員並びに発表者全員の配偶者、一親等の親族及び生計を共にする者に開示すべき利益相反（COI）関係にある企業などはありません。

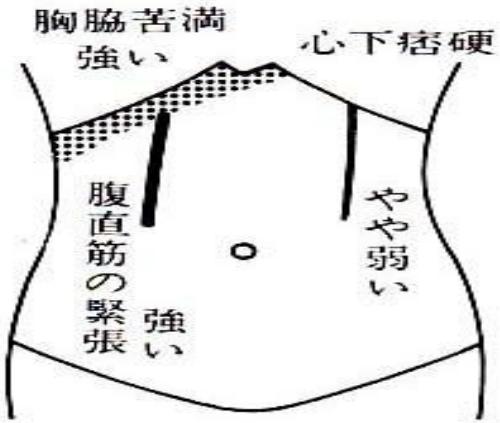
証

||

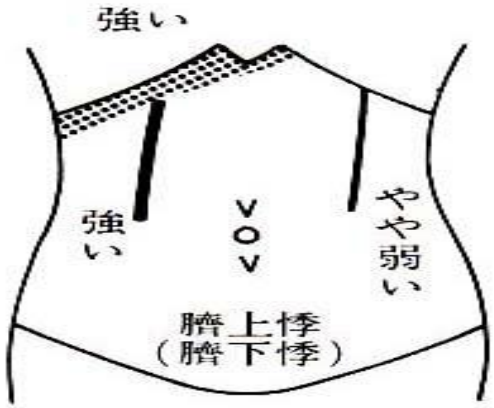
診断名

||

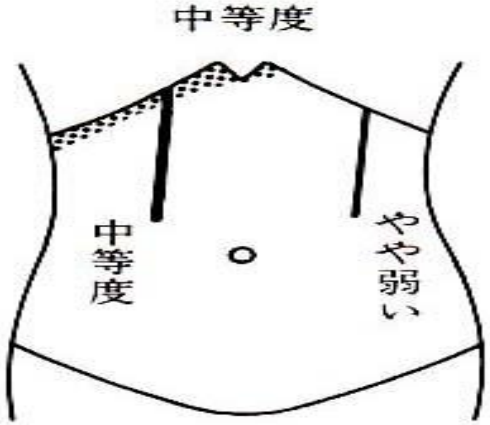
治療法



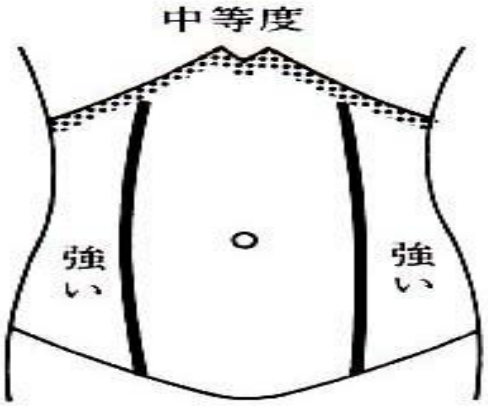
大柴胡湯



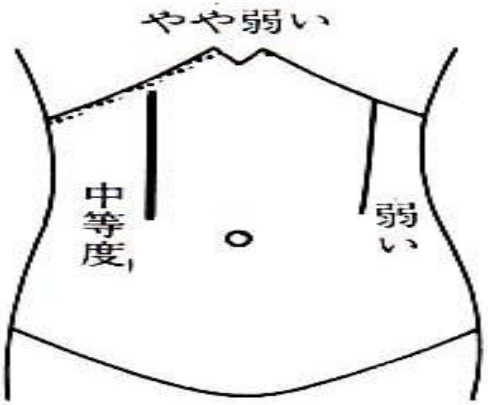
柴胡加竜骨牡蛎湯



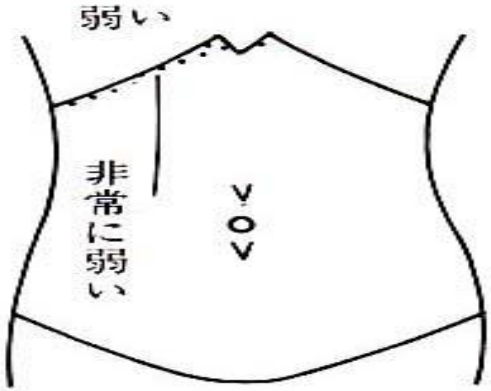
小柴胡湯



四逆散



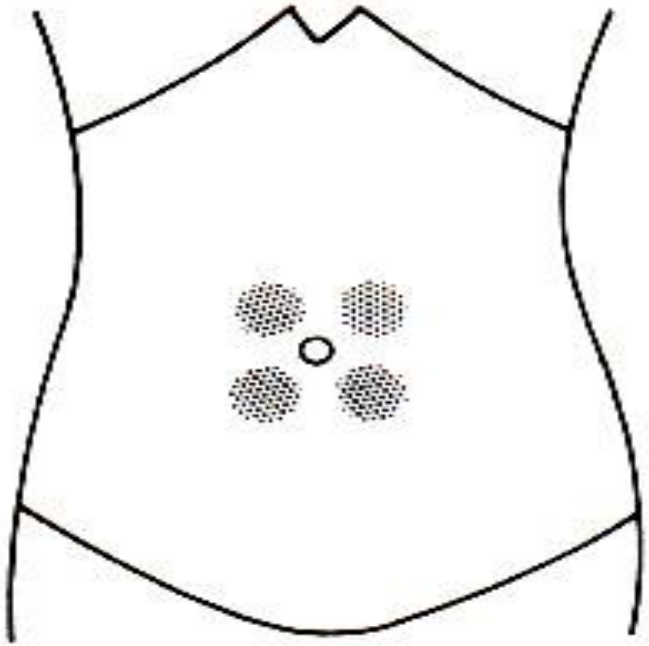
柴胡桂枝湯



柴胡桂枝乾姜湯

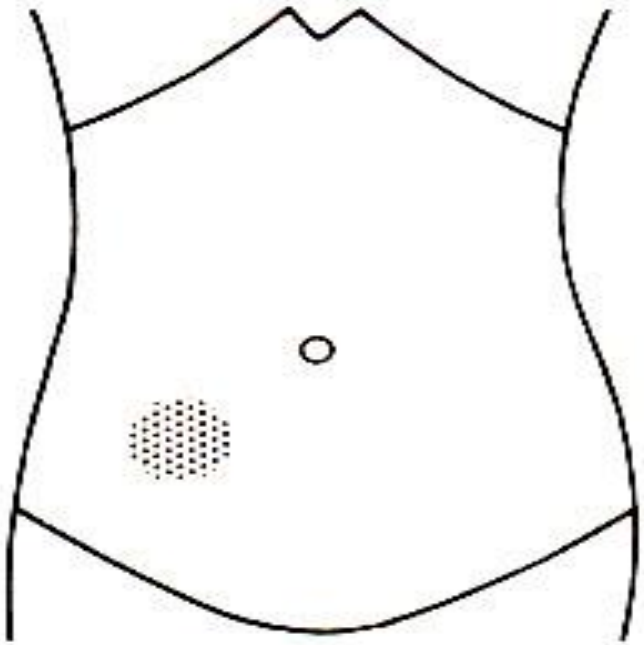
出典：漢方処方類方鑑別便覧〈付〉臨床に直ちに応用できる病名症候別別早見表　藤平健著

臍傍圧痛点



桃核承気湯
桂枝茯苓丸
当帰芍薬散

回盲部圧痛点



大黄牡丹皮湯
腸癰湯
薏苡附子敗醤散

出典：漢方処方類方鑑別便覧〈付〉臨床に直ちに応用できる病名症候別別早見表　藤平健著

山本 巌 語録

病態を正確に把握し、それに合わせた方剤を投与する。
これこそが本来の随証治療である。

病態が変化すれば証も変化する。その変化に応じて
処方を変えて治療することである。

正確に病態を把握するためには

1. 西洋医学的な診断を活用する

- 病理所見･画像診断･血液生化学検査などを動員して現代の身体構造に基づいた生体からの情報をつかむ

2. 東洋医学の智慧を借りる

- 西洋医学では認識出来ない虚証･寒証･瘀血証という病態の認識は、 病気を治療していく上で大切である

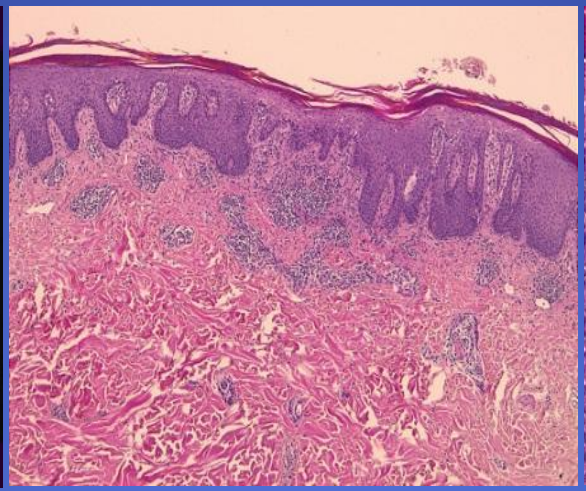
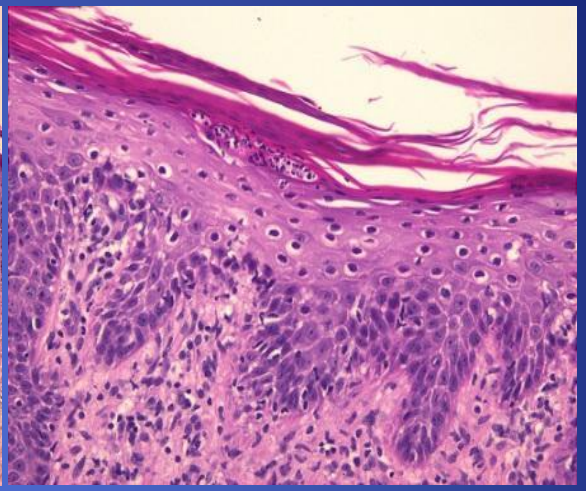
七物降下湯　大塚敬節

（当帰、川芎、芍薬、地黄、釣藤、黄耆、黄柏）

　釣藤には脳血管の痙攣を予防する効があるらしいし、黄耆には毛細血管を拡大する効があるらしいので、これを用いることによって、血圧が下るのではないかというのが私の考えであった。四物湯を用いたのは止血の意味であり、黄柏を入れたのは地黄が胃にもたれるのを予防するつもりで、まことにお粗末の恥しいような浅見で組合せて作ったものである。

「症候による漢方治療の実際」南山堂刊、1963年

尋常性乾癬の組織像と漢方医学的病態

マクロ像	ミクロ像	漢方医学的病態
厚い鱗屑	角質増生（hyperkeratosis） 不全角化（parakeratosis）	瘀 血
皮膚の肥厚	表皮肥厚（acanthosis:表皮のturn over亢進） 真皮乳頭の延長と表皮突起の下方への延長	熱 証
紅 斑	毛細血管拡張 真皮上層のリンパ球浸潤 角層下の多核白血球浸潤　Munro微小膿瘍	燥 証

'05/27 11:19:10

/06/17 11:40:10

/08/05 11:01:48

薬　　能　　：　個々の薬の効能:効用

薬　　性　　：　寒･熱･湿･涼･平

二味の変化：　組み合わせることにより

　　薬効が変わる

方　　意　　：　漢方のもっている意味

　　処方の設計

薬理　≠　薬能

麻黄

薬理：（成分としてエフェドリン）

- ●交感神経興奮作用（血管収縮、血圧上昇）
- ●気管支拡張作用、鎮咳作用
- ●抗炎症作用

薬能

- ●発汗散寒
- ●宣肺平喘
- ●利水消腫

漢方薬のシナジズム効果

発　汗

↑

桂　枝

⊕

鎮　咳 ← 杏　仁 ⊕ **麻　黄** ⊕ 白　朮 → 利　水

⊕

石　膏

↓

止　汗（消　炎）

尾台 榕堂 （1799～1871）

「方伎雑誌」

医術の要は方意を得るにあり。方意を得るは薬能を詳にするにあり。但一味の能あり、一方の効あり。故に唯薬能のみに就ては方意の解せざるも有しども、先ず薬能を知る時は、方の運用変通、自由自在を得て方を使うこと、恰も猿舞しの猿を使うが如し。

龍野一雄編著

新漢方処方集

中国漢方

気をつける生薬

① 麻黄‥‥動悸（頻脈）、のぼせ、胃腸障害

② 附子‥‥のぼせ、動悸（頻脈）

③ 大黄‥‥下痢、腹痛

④ 甘草‥‥偽アルドステロン症（長期の場合）

正気			病邪	
	実	❶ 発病しない または 容易に治癒	虚	
	実	❷ 闘病反応強く 陽証を呈し陽病となる	実	瀉法
補法	虚	❸ 病邪に侵害され 陰証を呈し陰病となる	実	瀉法
補法	虚	❹ 日和見感染となる	虚	

山本巌流漢方による 傷寒温病 診療マニュアル　　立花秀俊 著

参蘇飲（葛根、前胡、蘇葉、半夏、茯苓、陳皮
木香、桔梗、枳実、人参、生姜、大棗、甘草）

① 葛根、前胡‥‥解熱
② 葛根、前胡、蘇葉、生姜‥‥解表（寒気とこわばり）
③ 半夏、前胡、桔梗、枳実‥‥鎮咳、去痰
④ 半夏、陳皮、茯苓、生姜、甘草（二陳湯）
‥‥‥健胃（食欲不振）
⑤ 人参、茯苓、大棗、生姜、甘草
‥‥‥補気（元気にする）

桂枝湯（桂枝･芍薬･甘草･生姜･大棗）

① 桂枝、生姜･････散寒（悪風をとる）

② 桂枝、芍薬･････鎮痛（頭痛）

③ 桂枝、甘草･････のぼせ、動悸

④ 甘草、生姜、大棗･････健胃

桂枝湯　矢数道明

[方解]

主薬はいうまでもなく方名のごとく桂枝であって、気をめぐらし表を発散し、また上衝を鎮める作用がある。

次に重要なのは芍薬で、血行を盛んにし、また筋肉の緊張を緩和し、桂枝の作用を調節する働きがある。

また甘草は芍薬と協力して筋緊張や疼痛を和らげる。

また甘草は桂枝と組んで、気の上衝（のぼせ）を治し、生姜は桂枝とともに気を順らし、水を利し、また桂枝、大棗、甘草等の甘味剤で胃にもたれぬようにする。

また大棗には胸中を潤し、胸中の煩悶を治す働きがある。

「漢方処方解説」創元社刊、1966年

⊕ 桂枝倍量
桂枝加桂湯・・・・・・上衝（のぼせ）

⊕ 芍薬倍量
桂枝加芍薬湯・・・・・・消化管痙攣性疼痛

⊕ 膠飴
小建中湯・・・・・・便秘（コロコロ便）

⊕ 黄耆
黄耆建中湯・・・・・・虚労

⊕ 当帰
当帰建中湯・・・・・・子宮筋の痙攣性疼痛

麻黄湯　(麻黄、桂皮、甘草、杏仁)

① 麻黄、桂皮……散寒（悪寒）

② 麻黄、杏仁……鎮咳、去痰

③ 麻黄、甘草……治喘（気管支拡張）

※乳児の感冒には0.15g～0.2g／kg／日

桂枝湯

㊉ 葛根、麻黄 → <u>葛根湯</u>

① 桂枝、麻黄、生姜・・・・・散寒

② 葛根、芍薬・・・・・筋の緊張緩和、止痢

③ 甘草、生姜、大棗・・・・・健胃

小青竜湯（麻黄、桂皮、乾姜、細辛、五味子 芍薬、半夏、甘草）

① 麻黄、桂皮、乾姜、細辛……散寒

② 麻黄、半夏、五味子……鎮咳、去痰

③ 麻黄、芍薬、甘草……治喘

④ 麻黄、細辛……利水（鼻水）

麻杏甘石湯（麻黄、杏仁、甘草、石膏）

① 麻黄、杏仁……鎮咳

② 麻黄、石膏……消炎（滲出性炎症）

③ 麻黄、甘草……治喘

※五虎湯（麻杏甘石湯＋桑白皮）

麻黄附子細辛湯（麻黄･附子･細辛）

① 麻黄、附子、細辛･････散寒

② 麻黄、細辛･････利水（鼻水）

③ 麻黄、附子･････鎮痛（咽頭痛）

桂枝湯との合方

麻黄湯　→　桂麻各半湯

麻黄、杏仁、芍薬‥‥鎮咳、治喘

半夏厚朴湯（半夏、茯苓、厚朴、紫蘇葉、生姜）

①厚朴、芍薬‥‥治喘
②半夏、生姜‥‥鎮嘔
③桂枝、厚朴、紫蘇葉‥‥降逆、理気
④桂枝、茯苓‥‥動悸を止める、抗不安作用

麻黄附子細辛湯　→　桂姜棗草黄辛附湯

麻黄附子細辛によるのぼせを防ぐ、健胃

桔梗湯　(桔梗、甘草)

20～30㎖のお湯に溶いてうがいをし、その後服用する

小柴胡湯（柴胡、黄芩、半夏、生姜、人参大棗、甘草）

① 柴胡、黄芩･･･消炎解熱

② 半夏、生姜････鎮嘔（からえづき）

③ 人参、大棗、甘草、生姜･･･補気、健胃

小柴胡湯　矢数道明

（柴胡、黄芩、半夏、生姜、人参、甘草、大棗）

[方解]

方名の示すとおり、柴胡が主薬である。この薬は上部胸脇の寒熱によって起こる胸脇苦満を主治するもので黄芩の協力を得て、胸脇部の消炎、解熱、疎通をはかる。半夏と生姜は胃の停水を利し、気を開いて悪心、嘔吐を止め、食欲を進め、人参は甘草、大棗とともに胃の働きを助け、胸脇心下部の充塞感を緩解する。 柴胡は肝臓の機能を高める能力があり、熱性病による肝障害を回復するものと思われる。

「漢方処方解説」創元社刊、1966年

小柴胡湯
合　桂枝湯

→　<u>柴胡桂枝湯</u>

（柴胡、黄芩、半夏、人参、生姜、甘草
大棗、桂枝、芍薬）

① 柴胡、黄芩・・・・・消炎解熱
② 柴胡、芍薬・・・・・疏肝、解鬱（抗ストレス）
③ 桂枝、芍薬、甘草・・・・・鎮痙（頭痛、腹痛）
④ 半夏、生姜・・・・・鎮嘔（からえずき）
⑤ 人参、大棗、甘草、生姜・・・・・補気、健胃

小柴胡湯
合　桔梗石膏湯　→ 小柴胡加桔梗石膏

①　桔梗、石膏‥‥‥消炎、去痰、排膿

小柴胡湯加桔梗石膏　合　葛根湯

→　柴葛解肌湯(浅田宗伯)

急性腸炎

泄瀉‥‥水様性
主に小腸性 → 平胃散

痢疾‥‥腹痛を伴い、裏急後重
主に大腸性 → 黄芩湯

平胃散（蒼朮、厚朴、陳皮、甘草、生姜、大棗）

① 蒼朮‥‥下痢止め（腸管の水分を血中へ）

② 厚朴‥‥鎮痙、鎮痛（腹痛）

③ 陳皮、大棗、生姜、甘草‥‥健胃

五苓散（蒼朮、茯苓、沢瀉、猪苓、桂皮）

① 蒼朮、茯苓、沢瀉、猪苓（四苓）・・・・・利湿

（水分の排泄あるいは消化管内に余分にある水分を血中に移動させる）

② 桂皮・・・・・衝逆

（下から上へつき上げる症状、嘔吐、頭痛、のぼせなど）

※平胃散合五苓散（胃苓湯）

黄芩湯（黄芩、芍薬、甘草、大棗）

① 黄芩‥‥清熱、解毒（抗ウイルス、抗菌作用）

② 芍薬、甘草、大棗‥‥鎮痙、鎮痛、健胃

半夏瀉心湯（半夏、黄連、黄芩、人参
乾姜、甘草、大棗）

① 半夏、乾姜……鎮嘔作用

② 人参、乾姜……冷えによる胃のつかえを除く

③ 黄連、黄芩……清熱（抗炎症作用）

④ 黄連、甘草……安心（抗ストレス作用）

安中散（桂皮、良姜、縮砂、茴香、桂皮
延胡索、甘草、牡蛎）

① 桂皮、良姜、茴香‥‥温裏作用
（腹をあたためる）

② 延胡索、良姜、甘草‥‥鎮痙、鎮痛作用

③ 縮砂‥‥鎮嘔作用

④ 牡蠣‥‥安心（抗ストレス）、制酸作用（軽度）

当帰芍薬散（当帰、芍薬、川芎、沢瀉茯苓、白朮）

①当帰、芍薬・・・・・主として子宮筋の痙攣状の痛みを取る

②当帰、川芎・・・・・体を温める

③白朮、茯苓、沢瀉・・・・・体内の過剰な水分を除く

加味逍遙散

（柴胡、芍薬、当帰、甘草、生姜、薄荷、白朮
茯苓、牡丹皮、山梔子）

①当帰、芍薬、甘草‥‥子宮を含む中空臓器
の痙攣を緩める
②柴胡、芍薬‥‥疏肝解鬱
③茯苓、薄荷‥‥憂うつ感を治す
④白朮、茯苓、生姜、甘草‥‥健胃作用
⑤牡丹皮、山梔子‥‥消炎、止血、鎮咳作用

温経湯

（当帰、芍薬、川芎、麦門冬、阿膠、人参、半夏
生姜、呉茱萸、牡丹皮、桂皮、甘草）

①当帰、芍薬、川芎・・・主に女性の内分泌系の調節

②阿膠、麦門冬、当帰、川芎・・・滋陰作用（血虚を補う）

③牡丹皮、芍薬、川芎・・・・駆瘀血

④桂皮、芍薬、呉茱萸・・・・冷えによる頭痛を治す

四物湯（当帰、芍薬、川芎、地黄）

①当帰、芍薬、川芎‥‥活血薬
②当帰、地黄‥‥補陰薬

血虚とは、

症状①体がやせて、潤いがない
②皮膚に艶がない
③尿量が少ない
④爪がもろい
⑤毛細血管がもろく出血しやすい

四物湯との合方

①黄連解毒湯（黄連、黄柏、黄芩、山梔子）

温清飲

②苓桂朮甘湯（茯苓、桂枝、白朮、甘草）

連珠飲

③猪苓湯（猪苓、沢瀉、茯苓、滑石、阿膠）

猪苓、沢瀉、茯苓・・・・・利水

滑石・・・・・消炎

阿膠・・・・・止血

参考文献

●入門書として

「漢方123処方臨床解説　―師・山本巌の訓え―　」

福富稔明著　山方勇次編　　メディカルユーコン社

●西洋医学との整合性を求めて

「中医処方解説」山本巌　伊藤良監修　　神戸中医学研究会　　医歯薬出版社

●生薬の薬理、薬能を知るために

「漢薬の臨床応用」神戸中医学研究会　　医歯薬出版社

●日本漢方の薬能を知るために

「傷寒論の謎　―二味の薬徴―　」田畑隆一郎著　　緑書房

「現代類聚方」田畑隆一郎著　　源草社